

健康登山10:周辺の山05(向山、貴船山)

コース	二ノ瀬駅 0.8km/41	夜泣峠 0.6km/18	向山 0.6km/15	夜泣峠 1.4km/39
	ユリ道合流 1.1km/35	樋ノ水峠分岐 0.7km/21	貴船山 1.9km/46	滝谷峠
	0.7/20 P760m	0.6km/14	芹生峠 6.2km/94	貴船口駅
水平距離	14.7km			
水平換算距離	17.2km			
累計高低差	登り984m、下り956m			
標準歩行時間	5:43			
実績歩行時間	6:00			
	断面図			



山行報告

山行日 2006・3・2(木) 天候 曇りのち晴 参加者 9名

二ノ瀬9:04 富士神社9:34 夜泣峠9:56 向山10:17 夜泣峠10:33 ユリ道合流
 行動 11:09 分岐11:37 貴船山12:08~12:45 710m貴船山13:15 滝谷峠13:49 P760
 m14:16 芹生峠14:42 奥宮15:29 貴船神社15:58 貴船口駅16:20 出町柳

記録

周辺の山として普段はあまり行かない里山歩きをしている。
 前は沢山、城山、十三石山に登ったが、向山は日没で行けなかった。
 そこで今回は夜泣峠から向山まで往復した後、尾根道を経て樋ノ水峠から貴船山に登った。
 樋ノ水峠へは見事に手入れされた北山杉の中を歩かせてもらった。
 貴船山あたりから薄っすらと残雪があった。貴船山には標高699.8mの二等三角点がある。ここ
 とは別に国土地理院の2.5万分ノ1地図で貴船山と記されている辺りは710mの小ピークで落ちて
 いた雰囲気がある。ユリ道から100mほど西側になるが多くの人がこのピークを通られるので
 しっかりした踏み跡ができています。
 ここから滝谷峠までの間でヒノキの伐採が行われており、ヘリが頻りに丸太を搬出していた。
 滝谷峠から芹生峠へ向かう緩やかな登り道を30分ほど歩くと大きな伐採地に出る。
 地図に760mと記された地点である。
 この頃から晴れ間も出るようになり、間近に魚谷山が、その奥に棧敷ヶ岳が見えた。
 南西の方向には愛宕山や京都西山が確認できた。ここからの展望がこのコースのハイライトで
 ある。雨上がりに雪を被ったきれいな山々が見られてよかったと思う。
 ここから一気に芹生峠へ下り、6km程車道を歩いて貴船口駅へ戻った。途中、貴船奥宮で休憩し
 HRさんから神社の謂れなどを聞いた。
 水平距離15km、水平換算距離17km、アップダウンも少なく歩行6時間弱の手頃なハイキングコ
 ースである。一般には滝谷峠から下山する人が多いが、芹生峠まで足を伸ばすことをお勧めした
 い。
 次回も東海自然歩道を道草して蓑ノ裏ヶ岳から瓢箪崩山を周遊する岩倉の里山歩きとする。

周辺の山 (二ノ瀬~向山~貴船山~芹生峠~貴船口)



富士神社を
出発
09:34



夜泣峠
9:56



向山から
市内を見る
10:17



樋ノ水峠
へ向う
11:42



貴船山にて
12:45



滝谷峠へ
13:45



P760への登り
14:00



P760から
魚谷山
14:15



芹生峠
14:42



貴船神社前
15:58

名所・旧跡ミニガイド（周辺の山：二ノ瀬～向山～貴船山～芹生峠～貴船口）

- ◎ 二ノ瀬：惟喬親王が大原の小野に隠棲させられる以前に、暫らく滞在されたという。以前は雲ヶ畑の一(市)ノ瀬におられ、その後こちらに来られたので二ノ瀬の名が付き、親王の従者が住みついたところという。雲ヶ畑は往時、満樹峠越えの山道が使われていたらしい。市ノ瀬から十三石山の満樹峠経由で大岩、夜泣峠、二ノ瀬の道中であったかも。（現在は地名だが大岩で通れなかったのでは）
- ◎ 富士神社：富士(谷)神社は惟喬親王の母紀静子を祀った神社。隣に親王を祭神とする守谷神社がある。親王はこのあたりに滞在、轆轤を教えられ木地屋(師)の祖神として崇められている。
- ◎ 惟喬親王：55代文徳天皇の第一皇子、母が紀氏の出身のため、生まれて僅か九ヶ月という第四皇子惟仁親王に皇太子の座を譲らねばならなかった。惟仁親王(清和天皇)の母は右大臣(後に摂政)藤原良房の娘、明子であり、24歳の若き文徳帝は親王を寵愛していたが良房の権勢に押されて意思が通せず、藤原氏をはばかりて親王は大原の小野に出家、幽居される。戸寺バス停の山裾に親王の墓と伝えられる五輪塔がある。（844～897、54歳で薨った）なお北山の棧敷ヶ岳は親王が棧敷をつくり望郷の念で都を眺められたことに由来する。木地師の祖でもある。
- ◎ 二ノ瀬ユリ道：①ユリは緩(ユル)の語言変化でユリ道は緩やかな道の意。②丹波地方の方言で山腹道のこと、北山では古くからよい山道として知られている。広河原あたりから炭を運んだ。③巻き道の呼称（貴船社を遠慮して通ったとか）
- ◎ 二つの貴船山：二等三角点のある標高 699.8m。もう一つの貴船山？はピーク 710m。こちらも書籍、地図などで貴船山と記載されているものがあり、登山者が間違える地点でもある。しかし後者は貴船(気生嶺)の名が相応しい雰囲気がある。
- ◎ 滝谷峠：滝谷は貴船川の源流の一つ。名の由来は小規模ながら大小の滝があつたりするから。滝谷峠は魚谷峠や芹生峠にも通じている。魚谷峠は雲ヶ畑から灰屋、芹生、花背方面に旅人が往来した名のある峠である。
- ◎ 貴船奥宮：貴船社の古来鎮座場所である。貴船の水神が鎮座したのは平安時代初期の弘仁 9年(818)以前で山背地方の雨乞神としては奈良時代までさかのぼる。洪水のため、現本社は天喜 3年(1055)に移されたもの。
- ◎ 奥宮竜穴：奥宮神殿の下には大和室生の竜穴、備前の竜穴とともに日本三大竜穴の一つ貴船竜穴がある。床下に霊泉(吹井)が秘められている。遷座のおりにも汚さず、その中を見ることもはばかるという。ある遷宮時に大工が誤ってノミを

落としたところ竜が立ちのぼりノミを吹き上げ、本人は程なく落命したという。

- ◎ 貴船社祭神：本社祭神は高竈神(タカオカミノ神)、奥宮は闇竈神(クラオカミノ神)でタカ(峰)クラ(谷)を意味して両神を合わせて谷川の竜神となる。水の調整を自由に操り、国土を潤し、穀物を豊かに実らせる営みをなす神で国土発展のもとをなしている。イザナミ(女)尊が火の神であるホノカグツチ神を生み、それが因(火傷)で亡くなったときイザナギ(男)尊は深く嘆き悲しんで、死因をなした火之加具土神の首を切った。その折、剣を握った手指の間からもれた血から生まれた神という。(闇淤加美神＝高竈神)
- ◎ 吸葛社(すいかづらしや)：奥宮にあり呪祖神とされた。宇治の橋姫伝説や謡曲「鉄輪」(かなわ)の起源となった社
- ◎ 思い川：奥宮参道の三の鳥居前にある川。御物居川(おもものいみ)として禊をした所。結界でもあった。雨乞の滝(龍王ヶ滝)があり三段に分かれている。各段に一升づつ酒を流して祈願したという。
- ◎ 結社(中宮)：祈願すると男女の縁だけでなく、人と人の縁も結ばれるという。
(祭神、磐長姫命、山の神の娘木花開耶媛命の姉)
- ◎ 絵馬の原形：朝廷の勅使が雨ごい(炎旱)のときは黒馬を、止雨(長雨)のときは白馬または赤馬を神殿に奉納して祈願した。後には板立馬(板絵)に代ってくる。
- ◎ 芹生(せりょう)：冬の夜間は往人なし。夏は3家族ほどになる。勢竜天満宮があり、浄瑠璃や歌舞伎の「菅原伝授手習鑑、寺小屋の段」のモデルとなった伝蔵夫妻の寺小屋跡の勢竜天満宮がある。
- ◎ 加茂七石：①紅加茂石、②八瀬真黒石、③賤機糸掛石(しづはたいとかげ)、④紫貴船石、⑤畚下石(ふたごおろし)、⑥畑三色石、⑦鞍馬石。加茂七石は京都博物館前七条大和大路に展示されている。
⑤は火打石の原石で貴船口上流でとれた。赤、茶、白がある。